

自己の生き方をみつめ、仲間との絆を深める修学旅行をめざして

岐阜県大垣市立興文中学校

はじめに 大垣市立興文中学校の概要

1 学校の沿革

1947（昭和22）年に創立。翌年、大垣市立東中学校と統合し、東興文中学校となるが、翌1949（昭和24）年、興文中学校として独立し、開校した。1952（昭和27）年、新校舎第1期工事施工にともない、現住所に移転。

1991（平成3）年、大垣市教育委員会研究指定校に指定され、それ以来、大垣市の研修校として隔年で教科指導の研究実践について発表会を行っている。

2 学校の現況

（1）学校規模

開校63年目を迎え、現在の学級数は12学級（特別支援学級3を含む）となっている。生徒数は男子158名、女子150名の計308名である。

（2）地域・学校・生徒の実態

<地域の実態>

校区は大垣市の中心に位置し、古くからある住宅と商店を中心とする繁華街がある。学校周辺にはスイトピアセンター、市立図書館、大垣城ホールなど、文化的・体育的な公共施設が多くあり、恵まれた環境にある。近年は、分譲住宅やマンションが建設され、新興住宅も増えてきている。

<学校の実態>

西濃地区の研修校として、「自ら学び、共に高め合う授業の工夫・改善」を研究主題とし、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を育成する「習得・活用の授業づくり」を目指している。さらに今年度は、指導に生きる評価を効果的に行う実践を通し、指導の成果を検証していこうと取り組んでいる。11月に研究発表を行う。

<生徒の実態>

上記の授業作りの研究実践に加え、学習委員会による学習集団づくりの取り組みにより、学習に対する生徒の主体性が高まりつつある。「学習」は「合唱」「掃除」と並び、本校の伝統の一つとなっている。その結果、特に知識理解の定着において高い成果を得ている。今年度は家庭学習の指導をさらに充実させることで、学力をより高めていくことを目指している。

生活面では、生徒会の活動が中心となり、規律ある生活がつけられている。「ひたむき」「自利・利他」の精神が全ての基盤となり、校門付近や昇降口を掃除するボランティア活動や挨拶活動も活発に行われている。これらの取り組みの結果、自分の役割を果たそうとする心、他を

思いやる心が育ってきている。

一方で、困難を乗り越えより質の高いものを求めようとしたり、仲間と切磋琢磨して高め合っていていたりすることについて少しずつ改善されてきているが、まだ弱さが見られ、引き続き学校の課題ととらえている。

3 教育目標

本校は、「聡明な人間」「豊かな人間」「逞しい人間」を学校の教育目標として掲げ、知・徳・のバランスのとれた人間の育成を目指している。また、生徒一人一人が将来を力強く生きていけるように「自ら学び、自ら考えて行動する力（自立する力）」と「仲間と共に、よりよく生きる力（共生する力）」を身に付けさせたいと考えている。

そこで私たちは、教育目標の示す3つの人間に対し、「自立する力」と「共生する力」の二面から、具体的な目指す生徒像を以下のように設定し、指導を行うことで、教育目標の具現しようとしている。

学校の教育目標と目指す生徒像		
教育目標	自立する力	共生する力
聡明な人間	自ら考え、 正しく判断して行動する生徒	仲間と学び、 高め合う生徒
豊かな人間	自らを律し、 他者を理解する生徒	仲間を思いやり、 仲間のために働く生徒
逞しい人間	充実した気力で 困難に立ち向かう生徒	仲間と共に励まし合い、 鍛え合う生徒

○自利・利他を求め、何事にもひたむきに取り組む興文中学校

4 本年度の学校努力目標

生徒一人一人を生かし、伸ばす継続的な指導

生徒の心に届く教育を目指した、「心の琴線にふれる」指導

○「教え」「鍛え」「磨く」教育指導の推進

“常に生徒に寄り添いながら”を原点として、まず「教え」次に「鍛え」そして「磨く」というプロセスを重視する。

○「自ら学び、共に高め合う授業」の創造による「高い学力」の実現

「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学ぶ意欲・習慣」において力を伸ばす。そのために、「学習集団の育成」「指導過程の工夫」「言語活動の充実」「目標と指導と評価の一体化」に取り組む。

2009年度・2010年度の実践

1. 修学旅行の位置付け

学校の教育目標

学校課題 ・興味があることに対しては意欲的に取り組むことができる。 ・自分の考えを相手に伝える力や行動にうつす力には弱さが見られる。 ・学習意欲と学力に二極化の傾向が見られる。 ・人間関係を築いていく力に弱さが見られる。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>聡明な人間</td> <td>豊かな人間</td> <td>逞しい人間</td> </tr> <tr> <td>自立</td> <td>・自ら考え、判断して行動する生徒</td> <td>・自らを律し、他者を理解する生徒</td> <td>・充実した気力で困難に向かう生徒</td> </tr> <tr> <td>共生</td> <td>・仲間と共に学び、高め合う生徒</td> <td>・仲間のために積極的に働く生徒</td> <td>・仲間と励まし合い、鍛え合う生徒</td> </tr> </table>				聡明な人間	豊かな人間	逞しい人間	自立	・自ら考え、判断して行動する生徒	・自らを律し、他者を理解する生徒	・充実した気力で困難に向かう生徒	共生	・仲間と共に学び、高め合う生徒	・仲間のために積極的に働く生徒	・仲間と励まし合い、鍛え合う生徒	市町村教育委員会の方針・重点 よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ○学校の基本的な考え方を明確にした指導計画の改善 ○体験的・問題解決的な学習活動の工夫 ○一人一人の学習の状況や成果の把握に基づいた指導・援助の充実
		聡明な人間	豊かな人間	逞しい人間												
	自立	・自ら考え、判断して行動する生徒	・自らを律し、他者を理解する生徒	・充実した気力で困難に向かう生徒												
共生	・仲間と共に学び、高め合う生徒	・仲間のために積極的に働く生徒	・仲間と励まし合い、鍛え合う生徒													
総合的な学習の時間の目標 主体的に問題解決に取り組み、自らの生き方を考える態度・能力の育成																
育てたい資質や能力 <table border="1"> <tr> <td>自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。</td> <td>環境、福祉、平和のテーマの追究において、自らの生き方に合わせて考えることができる。</td> <td>問題の解決や探究活動に粘り強く取り組みその成果をまとめることができる。</td> </tr> </table>			自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	環境、福祉、平和のテーマの追究において、自らの生き方に合わせて考えることができる。	問題の解決や探究活動に粘り強く取り組みその成果をまとめることができる。											
自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	環境、福祉、平和のテーマの追究において、自らの生き方に合わせて考えることができる。	問題の解決や探究活動に粘り強く取り組みその成果をまとめることができる。														
総合的な学習の時間の名称 グローバルタイム (GT)																

教科との関連 [授業改善] 一人一人に確かな学力を育む教科指導 ・学習内容のつながりと評価規準を生かす指導計画の作成 ・自ら学び、共に高め合う指導過程の工夫・改善 ・自ら学び、共に高め合う学習集団の育成	総合的な学習の時間の内容及び学習活動 【学校経営の重点】一人一人を生かし、伸ばす継続的な指導の充実			特別活動との関連 *生徒の自主性・創意工夫を生かした行事や諸活動を実施する。 ・行事や諸活動への積極的な参加を促す。 *勤労の尊さの体得 ・奉仕活動を啓発する。													
	<table border="1"> <tr> <td>まとまりのある士気の高い集団の育成 【学校経営】</td> <td>一人一人の共感的な理解と支援 【生徒理解】</td> <td>一人一人に確かな学力を育む教科指導 【授業改善】</td> </tr> </table>				まとまりのある士気の高い集団の育成 【学校経営】	一人一人の共感的な理解と支援 【生徒理解】	一人一人に確かな学力を育む教科指導 【授業改善】										
	まとまりのある士気の高い集団の育成 【学校経営】	一人一人の共感的な理解と支援 【生徒理解】	一人一人に確かな学力を育む教科指導 【授業改善】														
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">GTA 「共生」 「自立と共生」</td> <td>「自然との共生」 郷土の水環境の現状を知り、水と関わる人々の生き方に触れながらそこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【37時間】</td> <td>「人(他)との共生」 福祉の現状を知り、地域の福祉に携わる人々の生き方に触れ、働く人との関わりの中で、望ましい職業観や人生観を考える。そして、そこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】</td> <td>「世界との共生」 戦争と平和の過去と現在を知り、そこに生きる様々な人々の生き方に世界平和のために、自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>職業についての調査研究、職場体験、体験発表を行う。 【27時間】</td> <td>高校見学、進路講話、体験入学等を通じて進路学習を行う。【27時間】</td> </tr> <tr> <td>創造活動 GTB</td> <td colspan="3">文化祭において、各学級でテーマを設定し、テーマに即した作品を創造し、発表する。 【13時間】</td> </tr> </table>				1年生	2年生	3年生	GTA 「共生」 「自立と共生」	「自然との共生」 郷土の水環境の現状を知り、水と関わる人々の生き方に触れながらそこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【37時間】	「人(他)との共生」 福祉の現状を知り、地域の福祉に携わる人々の生き方に触れ、働く人との関わりの中で、望ましい職業観や人生観を考える。そして、そこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】	「世界との共生」 戦争と平和の過去と現在を知り、そこに生きる様々な人々の生き方に世界平和のために、自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】		職業についての調査研究、職場体験、体験発表を行う。 【27時間】	高校見学、進路講話、体験入学等を通じて進路学習を行う。【27時間】	創造活動 GTB	文化祭において、各学級でテーマを設定し、テーマに即した作品を創造し、発表する。 【13時間】		
	1年生	2年生	3年生														
GTA 「共生」 「自立と共生」	「自然との共生」 郷土の水環境の現状を知り、水と関わる人々の生き方に触れながらそこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【37時間】	「人(他)との共生」 福祉の現状を知り、地域の福祉に携わる人々の生き方に触れ、働く人との関わりの中で、望ましい職業観や人生観を考える。そして、そこに生きる自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】	「世界との共生」 戦争と平和の過去と現在を知り、そこに生きる様々な人々の生き方に世界平和のために、自分に何ができ、何をすべきかを考え、実践していこうとする。 【30時間】														
		職業についての調査研究、職場体験、体験発表を行う。 【27時間】	高校見学、進路講話、体験入学等を通じて進路学習を行う。【27時間】														
創造活動 GTB	文化祭において、各学級でテーマを設定し、テーマに即した作品を創造し、発表する。 【13時間】																
道徳との関連 1-(2) 強い意志 1-(4) 理想の実現 1-(5) 向上心 2-(2) 人間愛 3-(1) 自然愛 3-(2) 生命の尊重 3-(3) 心の弱さ 4-(4) 公正・公平 4-(5) 勤労の尊さ 4-(8) 郷土愛 4-(9) 日本人としての自覚 4-(10) 国際理解																	

3年生GTのテーマ:

「世界との共生」～戦争の爪跡に触れ、平和を考えることを通して共生を考える～

【ねらい】

- ・平和について、自分の課題を追究し、自分の考えをもつことができる。
- ・戦争に関する調査を通して、平和に関する知識を深め自分にできることを考えることができる。
- ・平和学習を深めることを通して、自らの生き方を見つめ、自分たちができる身近な平和への取り組みを行うことができる。

以上のようにGT（総合的な学習の時間）のテーマを設定し、修学旅行をその学習の体験的な場（フィールドワーク）と位置付けた。

2. 修学旅行のねらい

- (1) 過去の日本が体験した戦争などの歴史的事実を学び、体験者からのお話を聞くことを通して生き方を学んだり、自分自身の生き方を考えたりする。また、文化、政治、経済の中心である首都圏を自らの課題に沿って見学、体験、調査研究し、見識を深める。
- (2) 計画、実践などの生徒自身の手による取り組みを通して、自主的・自律的な態度を身に付ける。
- (3) 集団行動を通して、社会生活のルールやマナーを体得すると共に、相手の立場に立って行動する態度を身に付ける。

修学旅行を通して達成したい目指す姿

学校教育目標	自立を目指す具体的な姿	共生を目指す具体的な姿
聡明な人間	自ら考え判断して行動する生徒	仲間と共に学び高め合う生徒
	研修のねらいを達成するために、それぞれの場面で正しく判断し、行動することができる。	研修のねらいを踏まえたテーマを設定し、課題をみんなで解決する。
豊かな人間	自らを律し他者を理解する生徒	仲間を思いやり仲間のために働く生徒
	全体のことを考え、自ら進んで、役割を果たそうとする。	仲間の気持ちを考え、仲間と協力し合いながらよりよい研修にするために努力できる。
逞しい人間	充実した気力で困難に立ち向かう生徒	仲間と共に励まし合い、鍛え合う生徒
	計画を立て先を見通すとともに、心身共に健康状態を維持する。	よりよい修学旅行にするために、互いに指摘し合ったり、励まし合ったりして活動する。

3. 計画立案にあたっての基本的な考え方

- (1) 総合的な学習の時間に事前学習した内容を、体験者からの講話や実際の資料を見聞きすることを通して更に自分の考えを深める場として修学旅行を位置づける。
- (2) 2日目の班別研修では、自分たちで決めた計画やルール（時間やマナーなど）を守りきるためには多くの問題がおこると予想されるが、仲間と協力しあってそれらの問題を解決することを通して、仲間のよさを実感し絆を深められるようにする。
- (3) 修学旅行の事前の日常的な生活の中で、修学旅行を成功させるための課題を見つけ、班・クラス・学年全体で取り組みを行う。また、事後に修学旅行で達成された姿を価値付け、それを継続し、更に質の高い姿を求め続ける。

以下は修学旅行のしおりに掲載された学プロ長の言葉である。

修学旅行で「発見・深化」しよう！

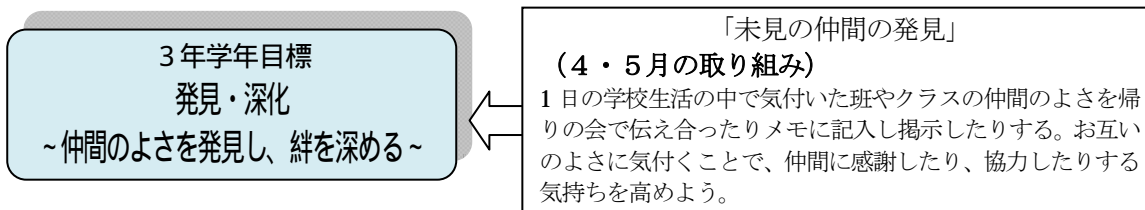
修学旅行のスローガンは「発見・深化」です。このスローガンには、学習と仲間づくりの2つの意味が込められています。まず、学習の面からの「発見」とは、大都市の東京で岐阜にはない文化や日本の政治について多くのことを自分の目で確かめてきたいという願いがあります。研修を通して学校の学習だけでは知り得なかったことについても気づき、新たに学んでくるということです。そして、新たに発見したことや学んだことを学校に帰って、もう一度自分で整理してまとめ、これからの生き方を考えることができれば、それが「深化」したことになると思います。

もう一つの意味は、仲間づくりについてです。3日間の研修の中で、班やクラスの仲間の一人一人の良さをみつけるということです。特に、2日目には班別研修があり、1日ずっと班の人と過ごすことになります。学校生活では見られなかった仲間のよさをきっとたくさん見つけられると思います。班の中で、地図を見るのが得意な人、積極的に道を尋ねてくれる人、疲れた様子の人に体調を気遣ってくれる人・・・など、困難な状況になった時こそ、一人一人の仲間のよさが見つかるといいます。仲間のよさや思いやりに触れることで、自分自身も仲間のために考えたり行動したりすることができるようになり、より深い絆や信頼関係を築けるでしょう。

これまで、修学旅行のために戦争について調べ学習をしたり、班別研修計画を立てるために何度も話し合ったりして準備をしてきました。また、日常生活の姿が当日に生かされるようにするために、各班が取り組みを決めて日常生活を改善してきました。その中でも、特に時間や挨拶は修学旅行でも大切にしたいことです。修学旅行でお世話になる方に気持ちよくあいさつをして感謝の気持ちを伝えられるようにしましょう。また、リーダーが指示したことには素早く応えて、時間やマナーをしっかり守りましょう。自分勝手な行動や甘い気持ちで仲間に迷惑をかけないように、5分前行動を常に意識したいと思います。楽しい修学旅行にできるかどうかは僕たち一人一人の行動次第です。今までの準備や取り組みを最大限に生かしてスローガンの「発見・深化」を達成し、思い出に残る修学旅行にしましょう。

日常生活での取り組み

この「発見・深化」は学年目標にもつなげ、日常生活を向上させる取り組みに発展させた。



学年通信 (5月1日) より

2年生の終わりに修学旅行のスローガンを決め、3年生に入ってから短い時間ではありましたが、準備や取り組みをがんばってきました。このスローガンに込めた願いをもう一度見直し、準備期間、当日にどのような願いを持って取り組めばよいか確認しましょう。

今まで、「平和」というテーマで、第2次世界大戦や第五福竜丸の事件についてGTAや社会科で学習してきました。オリエンテーションで特攻隊の資料を読むみなさんの目には涙があふれ「こんな時代がほんの60年前にあったのか・・・」「同じ世代の若者がこんな思いをしていたなんて・・・」という心を動かされるものでしたね。日本にいながら、ほとんど知らなかった過去の歴史に驚かされました。そして、それぞれ興味を持ったことについて更に深く調べ学習してきました。これは、まさにスローガンの「発見・深化」を「平和学習」の取り組みを通して達成していることになります。

一方で、日常生活の側面からは、仲間のよさを発見し、仲間との絆を深めるという意味もあります。新しいクラス・班になって、相手のことをよく知らなかったかもしれません。しかし、班活動や班での話し合いをする中で、お互いのよさを徐々に発見できたのではないのでしょうか。修学旅行の2日目には、ほぼ1日中班で行動します。道に迷ったり、体調が悪くなったりする仲間が出てくるかもしれません。そんな困難な状況になった時こそ、思いやりや知恵を出し合って困難を乗り越えてほしいと思います。また、疲れた時におもしろいジョークをとぼして班の雰囲気を明るく盛り上げてくれる人がいれば、きっと疲れも忘れて楽しい班別研修になることでしょう。一人一人が仲間のために・・・という思いに立った行動をすることにより、修学旅行は必ず成功すると信じています。一人一人の仲間のよさが発見でき、絆が更に深められる修学旅行にしましょう！

避難訓練の教訓

「日常の姿がいざという時の姿に表れる。」ということを避難訓練で学びました。初めから真剣になれなかった姿は、日常にある真剣さのない行動から生まれたものでした。時と場に応じて切り替え、真剣に取り組んだり、楽しんだりすることのメリハリをつけることは、私たちの日常でもとても大切なことです。いざという時に、自分の本物の力が発揮できるように今取り組んでいる各係からのめざす姿を意識して、一人一人がよりよい自分づくりをしてください。一人一人が高まるのが、仲間が高まることになり、仲間のことを思いやるのが自分自身を高めることにつながります。

係ごとの約束づくり

役割	めあて	約束	具体的な活動
班長	時間に余裕をもって行動できるように、わかりやすく正しい指示をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで決めた持ち物を自分たちで守る。 時間を必ず守る。(5分前行動) あいさつを必ずする。(大きな声で元気に) けじめをつける。(集合時は私語なし) 服装、着こなしを守る。 公共の場でのマナーを守る。(新幹線、電車、地下鉄など公共施設では周囲の一般客に迷惑をかけない言動をする。) 	<ul style="list-style-type: none"> 班員の人数を確認する。(点呼・報告を迅速に) 常に時計を見て行動する。(最低5分前に) もし、何かあったら必ず先生に報告する。 携帯電話を管理する。(必要な時のみ使用) 班員の荷物の確認をする。(移動前に座席などを確認)
学習	調べ学習での知識から見学をさらに深め、より多くのことを学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> メモをとり、学んだことを残す 班で教え合い、行動する。 見学先でマナーを守る。(あいさつ：静かに聞く、他のお客さん、相手を考えた行動) 	<ul style="list-style-type: none"> 見学場所の説明を行う。 見学先での行程を理解し、スムーズに見学できるようにする。 約束を守られていな子がいたら注意
保健	自分の体調をしっかりと管理し、元気に過ごせるようにしよう。	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの整理整頓 ゴミを出さない。 班員の体調を管理する。 常備薬がいる人は持ってくる。 手洗い、うがいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康チェックをする。 お風呂の時刻確認をする。 部屋のゴミチェックをする。
食事 美化	<p>食事： マナーを守って楽しい食事にしよう。</p> <p>美化： 来た時よりも美しく気持ちのよい環境にしよう。</p>	<p>〈食事〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 残さずバランスよく食べる。 食事のマナーを守る。(立ち歩かないなど) 合掌は、大きな声で行う。 <p>〈美化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のゴミは、ゴミ箱に捨てる。(ないときは持ち帰る) 自分の荷物は整理しておく。 使ったものは、元の位置に戻す。 汚した場合は、掃除をしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事(お弁当など)配布とゴミの回収 全員そろって合掌できるようにする。 マナーについての呼びかけ 荷物の整頓の呼びかけ ゴミの始末と忘れ物の未届け
写真 レク	<p>写真： いい思い出のつまった写真を撮ろう。</p> <p>レク： マナーを守り、一人一人が楽しめるレクをしよう。</p>	<p>〈写真〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 公平に全員が写る写真を撮る。 無駄に写真を撮らない。 マナーを守って写真を撮る。 <p>〈レク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が楽しめるようにする。 席を勝手に変えて仲間外れをつくらない。 マナーを考え、必要以上に騒がない。 	<p>〈写真〉</p> <ul style="list-style-type: none"> カメラの管理を行う。 枚数を確認する。 <p>〈レク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が楽しめるように呼びかける。 マナーと時間を守るように見届ける。
生活	マナーを守り、先を見通して行動し、規律ある修学旅行にしよう	<ul style="list-style-type: none"> マナーを守る。(あいさつ、服装、公共施設での過ごし方) 時間厳守 不要物を持ってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> 不要物の呼びかけ 先を見通した時間についての呼びかけ マナーについての呼びかけ 乗り物の席順の割り当て

上記の6つの役割を班内で一人一役分担し、準備や当日の仕事を受け持った。学年班会を2回開催し、各クラス・班から集まった18名のメンバーで、めあて・約束・具体的な仕事について話し合ったり確認したりした。班会後にクラスに戻り、共通理解したり徹底したりしておく約束ごと、また検討事項などをクラス全員に伝えるようにした。

各クラスの学プロ6名(実行委員)が各係の責任者となり、学年班会の事前準備として、各係の原案を考え、担当職員からの助言をうけて原案をまとめた。学年班会ではできるだけメンバーの意見を取り入れ、細かい約束事などは一人一人から発言を求めた。自分たちで決めた約束事を自分たちで主体的に守っていこうという意欲を高めるように配慮した。生活係が担当した持ち物についての約束は、クラスに戻って全員が共通理解できるように意見を求める時間を十分にとった。また、保護者にも持ち物の準備で協力していただくため、学年通信などでお知らせした。

修学旅行の持ち物・約束について (は手荷物で持っていく)

持ち物	約束
しおり	・研修計画やメモなど、必要なことを丁寧な字で記入しておく。
旅行カバン 研修カバン	・研修として、肩にかけ機能的に使えるもの。(大きすぎないもの、第1カバンでもよい) ・キーホルダーはつけない。
研修費+お小遣い	・研修費(交通費+入場料など)計画した金額 ・お小遣いは、8000円以内 ・お小遣いの中に東京班別研修での昼食費を含む。 ・友達とお金の貸し借りや、おごり合いは禁止
研修資料 (GTA ファイル)	・研修が効果的に行えるように整理しておく。 ・東京メトロナビ、路線図、研修計画表
入浴・洗面用具	・シャンプー、リンス、バスタオル、歯ブラシはホテルにあります。 ・ドライヤーも完備されています。・必要な場合は、シャンプー、リンス、洗顔料までとする。
常備薬など	・担任に届け出る。 ・薬用リップ、日焼け止め類も必要な生徒は届け出ること。 制汗剤は、もってこない。
帽子	・必要な人のみ ・華美なものはもってこない。
時計	・班で、一人持ってくる。
カードゲーム	・トランプ・ウノのみ(班に一つ)
雨具	・折りたたみ傘(ビニール合羽)必ずもってくる。
服装	・冬服を着ていく(名札なし)夏服(1枚持参) 靴 *学校生活と同じ規則、下に着るシャツについても白及びワンポイントまでとする。 *暑い場合は夏服を着用
その他	
ハンカチ、ハナカミ、タオル、ゴミ袋、生徒手帳、筆記用具 ペットボトルのお茶(1日日用) 2日分の着替え(カットシャツ、下着・靴下) パジャマ(体操服でもよい) 旅行カバンは、前日(13日)にトラックで運んでもらいます。 研修用カバンには、必要最低限度のものを入れてください。	

(2) 平和学習の事前指導(自己の生き方をみつめる平和学習)

【社会科学習でのねらい】

各種資料を適切に選択し、確かな事実をもとに多面的・多角的に考察することで、公正・公平に判断し、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【総合的な学習の時間でのねらい】

社会科で身につけた知識・技能や思考力・判断力を活用しながら、自ら課題を見つけ学び考え、主体的に判断し、問題解決する力を育てたり、学び方やものの考え方を深めたりしながら自分の生き方を考えることができる。

社会科授業での事前学習

単元名「現代社会のあゆみ」

授業Ⅰ 課題：今の日本の生活は本当に豊かだと言えるのだろうか。

資料 発展途上国の子ども

タンザニア

「子供たち何人かで、手で地面を掘って、深さ30cm、直径40cmくらいの穴をつくりました。しばらく待っていると、・・・手慣れた手つきで表面のほこりやごみをボウルですくって捨て、水を汲みました。それでも半分は泥でした。そのとき驚いたのは、子どもたちが小さい子供から順番に飲んだことです。「順番、順番！」と言いましたこんなひどい状況の中でも、小さい子供から、というやさしさに、胸がいっぱいになりました。・・・両親や兄弟を目の前で殺された子ども、ゲリラに腕や足を切り取られた子ども・・・だけど、だけど、そんな、ひどい状況の中で、自殺をした子どもは、一人もいない、と聞いた。希望も何もない難民キャンプでも一人もいない、と・・・私は、骨が見えるくらいやせて、骸骨のようになりながらも、一生懸命に歩いている子を見ながら、一人で泣いた。(日本では、子どもが、自殺してるんです。)大きな声で叫びたかった。こんな悲しいことが、あるでしょうか。

豊かさとは、なんなの？

「トットちゃんとトットちゃんたち」黒柳徹子

資料 中3男子金属バットで殴られ重体

産経新聞

23日午前0時半ころ、千葉県柏市の緑地で「男性が頭から血を流して倒れている」と地元消防に通報があった。倒れていたのは市立中学校3年の男子生徒。金属バットでなぐられており、頭の骨を折る意識不明の重体。柏署員が駆けつけ、現場に居た柏市在住の無職の少年(17)が「プロフに悪口を書き込まれたのでやった」などと供述したことから殺人未遂の現行犯で逮捕した。調べでは少年は被害者生徒とは直接の面識はなかったが、インターネットのプロフィールサイトを通じて、コミュニケーションをとっていたという。・・・現場には少年の仲間5、6人がおり、少年は「友人から聞いて、男子生徒を見つけ出した」と供述している。

資料 相次ぐ家族殺人

産経新聞

香川県坂出市のパート従業員の女性(母親)と孫の姉妹が殺害された事件など、11月中旬から今月初めにかけて、身内同士の悲惨な殺人事件が各地で相次いでいる。動機は借金や家庭内暴力などさまざまだが、関係のない子供を巻き込むケースもあり凶悪化している。坂出市のほか、鹿児島市では11月22日に、アルバイトの二男(26)が両親を殺害、和歌山市では今月4日に長男(52)が父親と姉の親子を殺害するなど、親族や親子による殺人事件が後を絶たない。



授業終末のまとめ 生徒の社会科ノートより

アフリカの子供たちは、日本に比べたら貧しいかもしれないけれど、「生きているだけで幸せ」って感じていつも心が満たされていて、心は豊かな国なんだなあとと思った。
それに比べて日本は何も不自由なく暮らせるけど、それが当たり前だと思っていて、自分が生きているってことに感謝できていなくて自分や人を傷つけてしまっているの、私たちは恵まれているのに何ばかなことやってるんだらう・・・と思った。本当は、今私がこうして生きていられるのは周りの支えがあったからなので「ありがとう」の気持ちを忘れずに生きていきたい。

授業のはじめは、「水も水たまりみたいな濁った水を使っていて、衛生的じゃないけど、日本はきちんと消毒されたきれいな水を使えるので豊かだと思う。」また、「アフリカは、親が働きに行くから子守りとかの家事も子供がやらないといけなくて、たぶん学校にも行けないと思うけど、日本の子供たちはきちんと学校に行けて豊かだ。」と生徒は考えていた。しかし、「本当の豊かさとは何か」と課題追究していく中で資料①のアフリカと資料②③の日本の状況を比較して考えを深めることができた。そして、本当に平和な国・豊かな国というのは単に物質的な面だけでなく、心の豊かさこそ大切なのだということに気づくことができた。

単元名「人権と日本国憲法」～平和主義とは～

授業Ⅱ 課題：第五福竜丸事件についてずっと沈黙を守ってきた大石さんは、なぜ今積極的に講演活動を行うようになったのだろう。

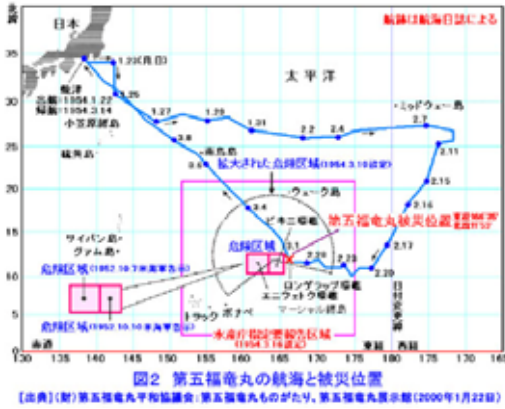
授業終末のまとめ 生徒の社会科ノートより

大石さんは、被爆者というだけでいやみを言われたりねたまれたりしてすごくつらい思いをしたのでずっと沈黙を守ってきたんだけど、やっぱり「原爆被害者は私が最後にしてほしい。」といった仲間の死を無駄にしたいいけないし、この事件を通じて核や放射能の恐ろしさをみんなに知ってもらいたいから講演活動を続けていることがわかった。
また、他の国が核兵器を持っていると「この国も持たなければ・・・！」と核兵器をつくったり、他国よりも強い兵器を開発したりして、どんどん爆弾が増えてしまうので、そういう国と国との見栄のはりあいによって世界を危険に陥れてしまうのは絶対に止めなければいけないと思った。
日本は「非核三原則」はあるけれど、今回の第五福竜丸事件でもアメリカの責任を問わない代わりに原子炉をもらって、それで終わっていて結局日本だって人の命より国の発展を大事にしていると思うので大石さんもアメリカだけじゃなくて日本の政府にも問題があると思っているんじゃないかなあと考えた。

生徒は、第二次世界大戦の終わりに広島・長崎に投下された原子爆弾による2つの被爆、そして、あまり大きくは取り上げられなかったが「第五福竜丸事件」での「第3の被爆」について学んだ。被爆の身体的苦痛もさることながら、「差別」という更なる苦しみに耐え、それでもなお核

廃止を訴え続ける大石又七さんの思いはどんなものなのか、修学旅行の講話で詳しくお聞きすることができた。

第五福竜丸



水爆の威力

広島に投下された原爆の約 1000 倍、第二次世界大戦の爆弾総量の約 5 倍の威力のある水爆実験。実験で島は3つ吹っ飛び、直径 1.8 km、深さ 70mの巨大なすり鉢上の穴ができた。実験3～4時間後には空全体を覆った雲から白い灰が落下。第五福竜丸の甲板に降り積もった。

人類初の水爆犠牲者

9月23日、無線長の久保山愛吉さんが息を引き取った。「死の灰」を浴びてから 206 日目、水爆による人類最初の犠牲者となった。

久保山さんは「背中に高压線が走っている。焼かれる」と力いっぱい手足を動かし暴れた。久保山さんはベッドに結わえられ一人にされた。布団の中で夜通し騒ぎ、「原爆被害者は私が最後にしてほしい」と絶叫しつづ亡くなった。

7 時間にわたる解剖結果は、内臓のいたるところが肉眼ではっきりと分かるほど放射能に侵されていた。しかしアメリカ側は放射能とは関係ない、輸血によるものでアメリカの医師が治療していれば亡くならなかったなどと言った。(大石さんの証言)



東京湾のゴミ埋立地
夢の島にすてられていた第五福竜丸

(「修学旅行のしおり」より)


武藤さんの投書(朝日新聞：1968年)

第五福竜丸。それは私たち日本人にとって忘れることのできない船。知らない人には、心から告げよう。忘れかけている人には、そっと思い起こさせよう。今から 14 年前の 3 月 1 日、太平洋のビキニ環礁。そこで何が起きたのかを。そして沈痛な気持ちで告げよう。いま、このあかしがどこにあるのかを。

東京湾にあるゴミ捨て場。人呼んで「夢の島」にこの証はある。それは白一色に塗りつぶされ、船名も変えられ、廃船の運命に耐えている。しかもそれは夢の島に隣接した 15 号埋立地にやがて埋められようとしている。第五福竜丸。もう一度、私たちはこの船の名を告げあおう。そして忘れかけている私たちのあかしを取り戻そう。原爆ドームを守った私たちの力でこの船を守ろう。今、すぐに私たちは語り合おう。このあかしを保存する方法について。平和を願う私たちの心をつなぐきっかけとして。

総合的な学習の時間での調べ学習

【第1時】GT（総合的な学習の時間）のはじめにあたって、テーマ：「世界との共生」～戦争の爪跡に触れ、平和を考えることを通して共生を考える～についてオリエンテーションとなる学年授業を社会科教諭の指導で実施した。第二次世界大戦末期の日本の悲慘な状況下で、当時の人々はどのような生き方をしたのかを歴史的事実と共に学んだ。



（書翰）
婚約をしてあった男性として、飲っていていく男子として女性であるあなたに少し言っておきたい
あなたへの幸せを思う以外に何物もない
従って過去の小義に拘るなけれ、あなたは過去に生きるのではない
勇気をもって過去を忘れ、将来に新活劇を見出すこと
あなたは今後の一時一時の現実の中に生きるのだ
穴澤は現実の世界にはもう存在しない
極めて抽象的に述べたかも知れぬが、
将来生かす具体的な場面面に活かしてくれよう
自分勝手な一方的な言葉ではないつもりである
純客観的な立場に立って言うのである
当惑は既に極も散り果てた、大好きな娘の嫁が此処へは直ちに訪れることだろう
今更何を言うかと自分でも考えるが、ちよつぱり欲を言ってみよう

一、読みたい本
「万葉」句集「道程」「点鐘」「故郷」
二、観たい劇
ラファエル「聖母子像」「芳屋」「悲母観音」
三、習恵子 会いたい、話したい、異性に

今後は明るく、朗らかに
自分も負けずに、朗らかに笑って行く

判夫

穴澤 判夫 大尉
第二十師団
陸軍特別攻撃隊第七中隊（中隊長）
1945（昭和20）年4月12日
一式戦闘機「疾風」にて突撃より帰隊
沖縄戦にて戦死
福地清太郎 23歳

資料
特攻隊員が突撃前に最後に書いた手紙
上：婚約者に宛てた手紙
下：両親に宛てた手紙

最後の便り
海軍中尉 小川 清

父母上様
お父さんお母さん。清も立派な特別攻撃隊員として出撃する事になりました。思えば二十有余年の間、父母のお手の中に育った事を考えると、感激の念で一杯です。全く自分程幸福な生活をすごした者は他に無いと信じ、この御恩をせむと返す覚悟です。
あの悠々たる白雲の間を越えて、坦々たる気持で私は出撃して征きます。生と死と何れの考えも浮びません。人は一度は死するもの、悠々の大義に生きる光榮の日は今を残してありません。
父母上様もこの私の為に喜んで下さい。
殊に母上様には御健康に注意なされお暮し下さる様、なお又、皆々様の御繁栄を祈ります。清は靖國神社に居ると共に、何時も何時も父母上様の周囲で幸福を祈りつつ暮しております。
清は微笑んで征きます。出撃の日も、そして永遠に。

・小川清中尉「最後の便り」
群馬県出身 早稲田大学卒 海軍第十四期飛行科予備学生
神風特別攻撃隊第七中隊
昭和20年5月11日南西諸島方面にて特攻戦死（バンカーヒルへ突入）24歳
2001年3月27日様々な人々の協力により、小川中尉の遺品が遺族に返還された。特攻隊員の突入時の遺品が返還されるというニュースはアメリカ、日本で新聞でも紹介され、テレビでも放映された。詳細はエピソードを参照。一こちら
（引用：「英霊の言乃葉」小川清師遺族）

ミッドウェー海戦から戦況が悪化し、資源の供給ができなくなった日本軍が考えた最終的な作戦が特攻隊であったこと、また、それによって将来有望な多くの若者が愛する人を残して犠牲にならなければならなかった事実を学んだ。
この資料を読みながら、多くの生徒が涙を浮かべた。自分の家族や身近な人々との今の幸せな生活を思い、当時の人々の生き方とのあまりの違いに心を打たれた。

橋本代志子さん

本市区画内で被災、父・宗太郎(60)、母・幸子(48)、三子、代志子(16)を奪う

やっと警報の三之坂のたもとにつくと、火はすでに両側の針葉に燃えうつって、強風が煽られ、巨大なバーナーの燃のよう吹きつけていました。

飛び交う火の粉が、逃げまどう人びとの肩や背にベタッと張りつく。そこらみるみる燃え出していきます。

父母は膝すみにすわり、その前に杖と私を抱かせる。『身体を強く伏せるんだ』と叫びました。

その時、私の背中で、博が『キヤ』と異常な泣き声をたてました。振り向くと、泣いている母の中に火の粉が、腕をふき、真つ赤に燃えていました。私はあわてて指でかき出すと、泣き叫ぶ子を腕に抱きました。『おんぽうを抱いた私の上に母、母の上に父がかばい合い、抱き合っていました。閉じたまぶたも、顔の色で真つ赤。』

『代志子、飛び込め、飛び込めだ！』突然、父が狂ったように、私の肩を揺すくゆすりました。

一瞬ためらった私の耳に、またも父のしかりつけるような声が、

すると、母は自分の防空頭巾をはずして、私の頭にかぶせてくれました。

火の中に写し出された母の顔。熱風に煽られ、髪の毛が逆立った母の顔は、今も私の心に深く焼きつき、消えることはありません。私は父母の足手まといにならずには、と夢中で膝下に寝ると、川の面に注意する間もなく、しつかり母を抱いて飛び込みました。

一瞬、川の水は息を飲むほど冷たく、痛いほどの感覚が全身を走りました。

水流は思いのほか急で、たちまち溺されました。流れていくかだに泳ぎつき、その上に子どもを乗せました。

いかだにつかまって橋を越える時、三之坂を見上げましたが、あの飛び交う中に大勢の



夢の中母みつむと思ひしにおぼろになりて三十年経し

N0.2

資料

東京大空襲で被災した橋本代志子さんの証言

3月10日の東京大空襲は無差別の本土攻撃で、一夜にして多くの犠牲者が出た。東京だけでなく、日本各地、地元の大垣にも同様の空襲があったことを学んだ。

資料

沖縄戦で当時16才だった宇久照子さんの証言

本土に上陸したアメリカ軍の攻撃によって犠牲になった沖縄の人々の状況を学んだ。

旧首里市 宇久照子(当時十六才)

ビニーツ ビニーツという音がして 砂地の砂がとぶので、おどろいて 見ると、友軍の兵隊が 私たちに向けて小銃をうっていたのです

民間人がゴソゴソするので、自分が見つかるとおそれ、米兵ではなく、同じ日本人めがけて撃っているのです。その弾が父の顔をかすめて、ケガさせました

妻は、かくれて見えなかつたのですが、後の方で、コフツ！おまえた。出て行け！とさけんでいたが、私たちに言っているのか、ほかの人に言っているのかわからなかつた。すると、近くで赤ちゃんの泣き声が出て、そこにも日本兵の弾がうちこまれ、殺されました

この海岸に来てからは、日本兵によって民間人が殺される場面は、いちどならず見ました

アメリカ兵は、日本の兵隊にたいして撃ってくるのであって、民間人とわかれば撃たなかつたものですから、無さべつに撃ってくる友軍の兵隊のほうが、アメリカ兵よりもこわい存在でした

赤い網いれの羽織の私と、えり巻きをした母、それに手ぬぐいでほおかむりをしてる父の、三人は、アダンのしげみの中で、しつかりと手をつないで、身じろぎもしないで、ひそんでいました

アメリカ軍は、海からこちらに向つて、パン、パンと機銃掃射してくるし、こちらでは、日本兵に小銃でいつやられるかわからない、という両方からの圧迫態にたえられず、とうとうアダンのしげみから砂場に出ました。もう、やられるならやられていい、という覚悟ができたので、逃げる場所もないこの辺りですから、満潮のときには岸にいて干潮のときには波がひたひたと足もとまでくる所までおりにました

この場所では、日本兵が同じグループの日本兵に殺されるのを見ました

資料

広島原爆投下で被爆した当時十六歳の少女の証言

広島、長崎に投下された原爆によって自分たちと同年齢の子供たちが経験した悲惨な状況を知り、原子爆弾や核の脅威についても学んだ。

原爆投下資料

○広島 女 一六歳（被爆時） 被爆距離一・五㎞

○私は逃げがして逃げる時に、若いお母さんが死んだ首のない赤ちゃんを背おって、なきながら逃げておられる姿を見て、たまらなくかわいそうで、ともに泣いた。

○横川橋の下の川の中でのこと。川を渡ろうとした小学生（三、四年くらい）の女の子が、深いため渡りきれず、浮いたり沈んだりしながら、助けて！、助けて！と叫びながら、とうとう流されて行ったのを見ても、自分もどうしてあげることができなかった。

今でもその声が耳の底に残っていて忘れられない。

○観音神社の常盤楼のところで、男の人とも女の人とも見さかひのつかないほどひどいやけどをした方が、私をみて、「おねえさん、水をください」と何回もいわれた。私はひどいきずをしていたが、常盤楼のポンプを押し、ころがっていたべんとう箱のよさうなものに汲んであげたら「おいしい、おいしい」といつてむしり取るようにしてのまれたが、見ているとまもなく死んで行かれた。何とも言えない気持ちで、しばらく立ちすくんでいた。

○私は女学校四年生で、学徒動員に出ていて被爆した。大内橋を越えて中山町のある家のところまで帰って来て、ふとその家の前の鏡に自分の姿がうつつたのを見て、自分の姿のあわれなことにひどく泣いて声をあげて泣いた。頭髪は乱れ、着ていた白いシャツは血でそまり茶色、モンペは半分下はなく、上はぼろぼろでさがっている。顔は三二カ所けがで（後からわかった）、目はつぶれて片方見えなかった。

○私は府中、小学校でけがの手当してもらい、夕方七時ごろ父母が迎えに来てくれた。うれしさのあまり声が出なかった（母もしばらくは茫然としていた）。

広島証言（直接被爆）

第二次世界大戦末期の極限状態の中で必死に生きていた人々の生き方を学ぶための調べ学習

- ① 4つの社会的事象（資料①～④で提示された事象）の中から、さらに深く調べていきたい社会的事象を選択し、テーマを決定する。
- ② 図書館の資料やインターネットを活用して、課題追究する。
- ③ 戦時中に生きていた人々の思いを今の自分の生き方につなげて学んだことをまとめる。
- ④ 修学旅行で出会う語り部の方々に聞いてみたいことをまとめる。

第1時の授業の後、生徒は各自テーマを決めて調べ学習に入った。オリエンテーションで触れた資料からもっと調べてみたいという関心・意欲をもち、どの生徒も主体的に学習に取り組むことができた。

また、修学旅行で、第五福竜丸の乗組員で被爆された大石又七さんと東京大空襲で被災された橋本代志子さんに講話を依頼したところ、快くお引き受けいただけた。社会科やG Tの授業で歴史的事実、当時の政治的背景など多くのことを学び、大石さんと大橋さんに修学旅行当日に直接質問したいことを考えた。

今日の目標

これからの学習の方向をつかみ、平和について考えよう

3年生のGTAでは、 **平和と自らの生き方** について学習をします。

1. 太平洋戦争について知っていることを箇条書きにしてあげてみよう。

- ① ミッドウェイ海戦がら始まった
- ② 東京大空襲
- ③ 広島、長崎 原子爆弾
- ④ 真珠湾攻撃
- ⑤ ポツダム宣言
- ⑥ 1945年8月15日に終戦
- ⑦ アメリカ軍が沖縄に上陸
- ⑧ 特攻隊

2. 終戦間際に日本で起きた複数の事実について何を感じたか、またこの時代に生きた人々の生き方をどう思ったか。事実や資料を見て感じたことを書こう。

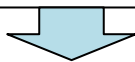
戦争ってというのはとても辛くて悲しいことだとは知っていたんだけど、敵に身うちを殺されることだけでなく、自分の赤ん坊を自分で殺してしまったり、大切な人と一緒にいらなくて、その人の幸せをいえることが出来ないことが知って、家族がいる喜びとか幸せがあたりはずなのになんかそれをなくすのは無理な気がするってのは悲しいって一言で言えないような深くおちついていくような空しい思いでいっぱいだったと感じた。

3. これから「平和と自らの生き方」について学習していきます。あなたは、何を学びたいですか、また、何を学ばなければならないと感じますか。なぜ、この学習をしたいと思いますか・・・

今の人間は大きな幸せがあり感じなくて、小さな幸せも忘れているから大きな幸せがなければ自分は悲しい人間なんだと思ってはいて、ちよとしたことで自分自身も殺してしまったりする。だからもって昔の人が辛くても必死で生きる生き方とか、その人たちに自分からなりたいものを今の私達ももってゆかなくて、今生きていて自分の生き方のためだと思ってることを全くと見直して新しい生き方をみつけていけるんだと思った。

「悲しい」と一言で言えないくらいの当時の状況を授業から学び、家族や大切な人を亡くすことがどれだけ辛いかということを感じ取った。

当時の人々の辛くても必至に生きようとした生き方から、自分の生き方を見つめ直したいと考えた。



【調べ学習】

【選択項目】 沖縄

【私の立場】

「沖縄」の戦争にしようとしたのは、先生が一番辛い戦争だとおっしゃっていて、もっと深く、その真相に入れこんでいくことで本当の辛さがますますわかって思う。そういう辛い中でも人はそれに耐えようと、どうして生き方をしているのかを知らなくて、今自分たちはどうすべきかという生き方を学びたいと思ったから。

調べ学習で沖縄戦について調べた生徒は、当時の人々が体験した事実やその時の思いを実際の証言の記録から学んだ。調べ学習では ①沖縄戦の状況（犠牲者数など被害状況） ②なぜ軍人よりも現地住民の死者が多かったのか ③目の前で人が死んでいくのをどう思ったか以上の3点についてまとめていた。

【選択項目】 沖縄戦争
【私の立場】
<p>沖縄戦は太平洋戦争末期の1945年3月26日から9月23日の6ヶ月間に渡って沖縄県で繰り広げられた。</p> <p>沖縄戦の戦闘の厳しさは「ありふれた地獄を一つにまとめた」「鉄の暴風」と表現される。 (当時の人口の半)</p> <p>この戦いには77%の琉球住民が巻き込まれ、死者は住民だけで10万人を超えるといわれている。住民たちは自然洞窟(ガマ)や墓などの自分の隠れ場所が日本軍によって強制的に奪われ、次第に逃げ場を失っていた。そして、住民たちは自分の居場所に米軍が迫ってくると、77%が軍国主義の戦時教育の影響によって集団自決を遂げることが出来なくなっていた。</p> <p>この戦闘の際に首里城や玉陵などの77%の貴重な遺産が破壊された。殺された住民の中には米軍の弾丸や砲弾による死だけでなく、洞窟の入り口から米軍に爆弾やガス弾を投げ込まれ殺された住民も77%いる。兵力が米国は約54万8000人なのにその半分にもおよばない日本軍は約11万6400人であった。</p> <p>「なぜ軍人以上に住民の死者が77%か」</p> <p>沖縄戦は首里城にある沖縄守備軍の司令部が陥落すれば終わるものと米軍側も、当初は沖縄守備軍の司令官も、沖縄の住民も思っていた。それでも首里城南の南部地域には77%の住民が避難していた。ところが本土防衛、国体護持の時間稼ぎのため5月22日に南部撤退が決定される。77%の住民が避難していた所にまだ戦争を続けるために軍が逃げるとき、ガマなどを強制的に徴用したため住民は砲弾のなかに追い出される事となった。</p> <p>「目の前で人が死んでいくのをどう思ったか」</p> <p>あらゆる場所が「死の場所」だったから、生きる所に死体が散らっているのだ。77%の証言に共通していることは、その死体に出会うと「初めはそれだけの個人的な感情を抱いているが、次第に慣れてきて、純粋な何とも感じなくなってきた」。放置されている死体に「かわいそう」とか「酷すぎる」という</p>

このような調べ学習を通して、事実を知るとともに、当時の人々がどのような思いで必死に生きようとしたのかについて理解することができた。

(3) 班別研修の計画(仲間との絆を深め、よさを再発見する班別研修)

オリエンテーション

班別研修は2日目の午前8:30~午後5:00までの活動時間を設定した。1日を通して学ぶことは次の2つであり、訪問先をその2つに沿った場所にするよう計画作成の際、事前指導をした。

- 1) GTのテーマの「平和」についてさらに深く学ぶ。
- 2) 首都である東京で文化・芸術や政治・経済について学ぶ。

各班に修学旅行用のガイドブックやメトロナビを配布し、地理的なイメージを持てるようにしたり、ふさわしい見学先・体験先をあらかじめ用意したりして、計画を立てるときの参考になるようにした。また、4月から新しい仲間と新しい班で生活し始めて日が浅く、まだお互いをよく知らないこともある。班で協力しあって研修することを通して、仲間のよさをたくさん発見してほしいという願いを話した。

グループ研修 トラブル処理 マニュアル

危険を感じたら近づかず、速やかにその場を離れること！

< 交通機関において >

トラブル	状況	対応
電車の乗り間違い	・行き先の違う電車に乗った ・路線を間違えた。など	・気づいた時点で電車を降り、乗車駅に戻る。 ・駅員さんに聞く。 ・時間に遅れそうな時には、本部に連絡する。
電車の乗り過ごし	・降車予定駅を通過してしまった	・気づいた時点で電車を下り、どの電車に乗るべきか確認し、目的駅へ向かう。 ・駅員さんに聞く。 ・時間に遅れそうな時やコースから外れすぎた時は、本部に連絡する。
切符の買い間違い	・違う切符を買ってしまった	・すぐに、駅員さんに聞く。
切符の紛失	・落とした	・最寄の駅事務所（料金清算窓口）へ行く。

困った時には、すぐに本部へ連絡し、指示を受ける。

1日目 5月15日(木) 連絡先	2日目 5月16日(金) 連絡先

< 活動・行動において >

トラブル	状況	対応
お金・物の紛失	・財布を落とした ・荷物の置き忘れ	・置き忘れの可能性がある場合は、その場所に戻って探す。 ・駅事務所に届いていないか確認する。 ・盗難の場合は最寄の警察署へ連絡する。 ・本部へ連絡する。
グループから離れる	・1人と複数 ・複数と複数	・どの場合もはぐれたと思った時点で本部に連絡する。 ・電車の乗り遅れの場合は次の駅で待つ。
病気・けが	・腹痛や頭痛など	・その場の休養で対応できる時には待つ。 ・程度に応じて本部に連絡する。
事故に遭遇	・交通事故 ・転倒など	・直ちに本部に連絡する。 ・必要に応じて救急車の手配をする。
集合時間に遅れそう	・乗り遅れ ・迷った	・研修地へ連絡する。 ・本部に連絡、指示を仰ぐ。
目的地が見つからない	・見学目的の場所が見つからない	・周囲の信頼できる人（店員・警察官・駅員）に聞く。 ・研修地へ連絡する。 ・本部に連絡する。
からまれた	・恐喝など暴力行為 ・他校とのトラブル	・周囲の人に援助を求める。 ・警察、公的機関に逃げ込む。 ・直ちに本部に連絡する。

本部から「待機」の指示がある場合、必ず動かずに待つこと

6. 当日の取り組み、事後活動

(1) 当日の動き

出発日には定刻通り全員が集合し、予定通り出発することができた。

学校長はじめ、学年主任や実行委員長から、「この修学旅行でお世話になる方への感謝の気持ちを忘れないようにしたい」という願いが語られた。また、仲間のよさを発見することや平和学習で事前に調べたことを更に深めてくることを確認した。

【国会議事堂】

参議院会議場を見学した。待ち時間に



出発式

- ① 学校長の話
- ② 学年主任の話
- ③ 実行委員長の話
- ④ 添乗員の紹介
- ④ 健康観察・諸連絡
- ⑤ あいさつ



地元出身の棚橋衆議院議員が出迎えてくださり、議員バッジを見せてもらったり、質問に答えてくださったりした。社会科で三権分立の民主政治について学習しており、立法の中心にある国会がここで実際に行われていることを実感することができた。

【東京大空襲戦災資料センター】

GTの時間に東京大空襲について事前学習した上で、実際の体験者である橋本代志子さんにお話を聞くことがで



きた。家族を失った体験を思い出して語ることは本当に辛いはずなのに、涙を流して語ってくださったのは、何とか後世に二度と戦争を起こさず平和な世界を維持してほしいという強い願いがあるからだということを知った。2階の展示室では当時使われた実物の焼夷弾や日用品などを見ることができ、お話をさらによく理解することができた。

【第五福竜丸展示館】

社会科で学習した第五福竜丸事件について実際の乗組員として被爆された大石又七さんからお話を聞くことができた。大石さんは被爆した日の様子を克明に語ってくださった。空が夕焼けのように真っ赤に染まったこと、水平



線のかなたから地球が終わるのではないかと思われるくらいのすさまじい振動が伝わってきたことなど、水爆の恐ろしさが生々しく伝わってきた。仲間が次々に体調を崩し倒れ、差別で辛い体験をされる中で一時は第五福竜丸事件について口を閉ざしたものの、再び核の恐ろしさを自ら語っていかうとされる心境の変化についても話してくださった。政治的背景が複雑に絡む中で大きく取り上げられることなく闇に葬られようとしたこの事件が、第三の被爆であることには間違いないということがとても力強いお話からしっかりと伝わってきた。そして、核廃絶が本当に現実のものになるよう次の世代を担う者に託されている責任を感じるすることができた。

【班別研修】

学年全ての班が無事に集合時刻までに帰ってくる事ができた。最後に電車を乗り間違えてぎりぎりになり、汗をかきながら走ってくる班もあった。班員がばらばらになることもなく、体調を気遣ったり、地図を見るのが得意な生徒は目的地を確実に探



し当てたり、率先して駅員さんに道を尋ねたりする生徒もいた。それぞれのよさが発揮され、仲間の優しさやたくましさをお互いに発見することができた。

(2)事後活動

【一人一人の仲間のよさを発見し交流し合った】

今日は、1日班別研修でした。最初は班の子について行けるか心配でした。でも〇〇さんや〇〇さんが気をつかってくれたり、「大丈夫？」と声をかけてくれたり、〇〇君や〇〇君のおもしろさにたくさん笑わせてもらったりしました。すごい歩いてめちゃくちゃ疲れたけど、班の子のおかげで1日楽しく過ごすことができました。班の子とはあまり話したことはなく、どんな子たちかな？ってずっと思っていました。最初は気ばかりつかっていて相手に壁をつくっていました。だけど、班の子のいいところを見ていくうちに、〇〇さんと普通に話していたり、〇〇さんと笑っていたり、〇〇君と話していたり、〇〇君の表情を見ていたり・・・。私の変化は、きっと班の子のやさしさのおかげだと思っています。まだ少し気をつけてしまうけど、最初の頃に比べたら、その思いは変わったほうです。班の子のやさしさや気遣いがとてもうれしかったです。

自分が成長できたことは、仲間との壁を作らずに関われたことと、たくさん笑顔になれたことです。それもこれも仲間のおかげで成長できたと思っています。仲間のやさしさがたまらなくうれしかったです。弱さはまだいっぱいあります。まだ気をつけてしまって素の自分を仲間に見せていないことなどです。いつか素の自分で、仲間と関われるようになって、班の子からも素の自分で接していきたいです。私に笑顔くれたのは仲間でした。仲間からやさしさをいっぱいもらいました。自分も笑顔を増やし、やさしさを忘れずに仲間と関わりたいと思います。

【Aさんのプリントより】

クラスの中になかなか溶け込めず、孤立しがちだったこの生徒は、この修学旅行をきっかけに、班やクラスの中に少しずつ入っていけるようになった。

今日は一日班別研修でした。今日一日班で行動してみて、班の子のよさを実感できてよかったです。〇〇さんは、班長として、しょっちゅうみんながはぐれていないか、確認してくれました。人ごみの所も多かった中、一人も迷子にならずにできたのは、〇〇さんのおかげです。〇〇さんは、もんじゃやさんで、もんじゃを作ってくれました。食べるのも、作るのも初めてだったと思うのに、すごく上手にできていて、さすがだなあと思いました。〇〇さんは、いつも周りのこと、マナーを考えてくれていて、私たちに注意してくれました。ありがとうございます。〇〇さんは、私たちが固まって時、「～じゃない?？」とアドバイスとかいい案を出してくれました。〇〇さんは、展示とかをすごく注意深く真剣に見ていてすごいなあと思いました。また人ごみの中でも、はぐれないようにがんばっていました。それにいつもよりたくさんおしゃべりできてうれしかったです。

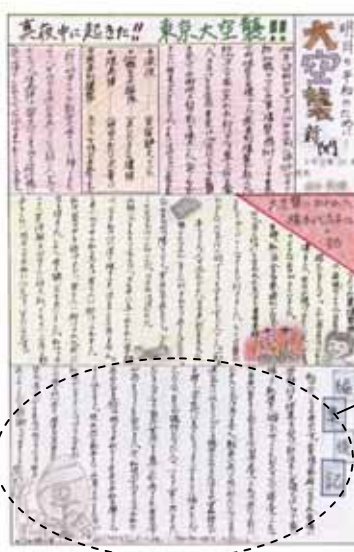
成長したことは、いつもみんなのことを気遣えるようになったことです。でも、マナー面などで周りの人に迷惑をかけてしまったり、班の子のマナーが悪いとき、なかなか注意できなかったのも、ただ仲良しの班じゃなくお互いに言うことは言える仲間関係をつくっていききたいです。

【Bさんのプリントより】

一人一人のよさをしっかりと見つけ、あまりコミュニケーションをとろうとしない仲間にも気遣いを見せていた。仲がよいだけでなく、時には注意し合える仲間でありたいという願いももつことができた。

【GTのまとめとして新聞づくりと発表会を実施した】

GTのテーマ:「世界との共生」～戦争の爪跡に触れ、平和を考えることを通して共生を考える～について



事前学習、修学旅行のフィールドワークを行い、学校に帰ってから学んだことを新聞に書きまとめて、自分の生き方も見つめ直す機会をもった。この学習のまとめとして各クラスで交流会をして、学年集会で代表者が発表をして意見交流を行った。

私は今とても幸せです。普通の家庭に生まれ普通に学校へ行き、授業を受け、部活をして友達とはしゃいで家に帰り、勉強をし、遊んでゆっくりとお風呂に入って寝ます。こんなに自由に生きることができる今があります。これは、当たり前にはありません。戦争を体験し、思い出したくないことを涙ながらに伝えてくださる橋本さんのような方々や資料館を建て、次の世代に見てもらおうようにすることに協力してくださった人々、自らが犠牲になった人々、辛くて苦しい思いをしたたくさんの人々の努力・苦勞そして尊い命あってこそ、幸せな今があることを学びました。今、私たちがすべきことは、平和のありがたみを感じ、明日の平和そして、未来の平和を願うこと。そして伝えること。核兵器と戦争のない世界をつくるために私たちができることはほんのわずかだけど、核の悲惨さ、歴史の真実を学び、考え、今の幸せは多くの人々の努力あってのことだと感謝しつつ生きていきたいと思いました。

【Cさん「大空襲新聞」より】



大石さん自身もたくさん病気をもっているのにそれも講話をしてくださるのは、核兵器に対する怒りや被爆者として核の怖さを伝えていく責任がある！という思いがあるからだということが強く伝わってきた。これからの時代を担っていく私たちが、平和な世の中をつくっていかねばいけなさと実感した。今こうやって核をなくそうと必死に努力している人がいるのを忘れずに、そんな人の努力が無駄にならないように私にもできることを探してみたいと思った。被爆者のお話が聞ける世代も私たちが最後になりつつあるので、核は絶対ダメ、平和が一番だということをもっと責任をもって更に後世に伝えたり行動で示したりしたい。
【Dさん「福竜丸新聞」より】

生徒は仲間の様々な感想や考えを交流することを通して、自分にはなかった考え方に触れることができ、更に考えを深めることができた。また、戦争や核問題について、私たちが後世にこの事実を忘れ去られないように伝えていく責

任や、今の平和が簡単に得られたものではないという、平和の重みを実感することができた。

7. 修学旅行の成果と課題

- 総合的な学習の時間、社会科など、教科の授業と関連させて事前学習を行うことによって、修学旅行のフィールドワークの学びをより深めることができた。
- 事前指導や研修計画立案を綿密に行うことによって、修学旅行当日に主体的に研修する意欲を高めることができた。また、研修を通して仲間のよさをたくさん見つけ絆を深めることができた。
- 戦争の傷跡をたどる重いテーマであったが、大橋さんや大石さんが自ら語ってくださる体験や思いは感受性の鋭い生徒の心を強くゆさぶり、真剣に考えたり自分の生き方を見つめたりする大きなきっかけとなった。
- ◆5月半ばの実施だったため、準備の時間が十分にとれなかった。2年生からの見通しをもった計画・準備が必要であった。
- ◆班別研修やクラス別研修では更にキャリア教育などとの関連も考えて、実際に職場での体験活動を行ったり、政治・経済に関わる仕事について学んだりする場も検討していきたい。

おわりに

「一生の思い出となる修学旅行」とよく言われるが、今回の修学旅行は単に楽しい思い出づくりというだけでなく、仲間との絆を深める場であり、更に今の自分を振り返りこれからの生き方を考える場になったと思う。感性豊かな生徒たちは、戦争体験者である橋本さんや被爆体験者の大石さんのお話を実際に伺うという貴重な体験を通して、これから生きていく上で指標となる大切なことを学ぶことができた。また、生徒だけでなく私たち職員も共に学ぶことができ、世界とのつながりや生き方を考える大変よい機会となった。最後に様々な場面で多くの方々にご協力いただけたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。